

滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1番1号 滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会 発行責任者／戸田 茂

URL: <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

目次	経済学部の教育研究について・・・1～2	学生生活だより・・・4～6
	データサイエンス学部の	国際交流・・・6～7
	・教育研究について・・・2～3	資格取得等報奨制度・・・8
	令和4年度卒業式・・・3～4	

経済学部の教育研究について

経済学部長 中野桂



平素より、経済学部の教育・研究にご協力を賜り、心より御礼申し上げます。特にコ

ロナ禍では、アルバイトなどができるように生活に困っている学生に対する食料品援助などを後援会のご協力を得て実施することができました。これまで支援をいただいていた対外試合や合宿などについては徐々に正常化されつつあります。5月には新型コロナウイルス感染症の2類から5類への区分変更が予定されており、いよいよ学生生活が以前の状態に戻ることが期待されております。ついては、これまで以上に学生活動の活性化をはかってまいりたいと思っておりますので、後援会の皆様のご支援を引き続きよろしくお願いいたします。

さて、既にご承知の通り、経済学部ではこの4月からこれまでであった5学科を廃止し、総合経済学科の1学科となります。従前は入学前に学科を選択しなければなりません。

たが、これからは入学してきてから経済・経営に関わるさまざまな分野の学習をしたうえで、3回生進級時に経済専攻・経営専攻・社会システム専攻のいずれかを選ぶこととなります(人数に大きな偏りがある場合は選考有り)。

また、これまでであったデータサイエンス副専攻(政策・ビジネス革新創出人材)プログラムを内容的にも規模的にも拡充し、データサイエンス・コースを新設します。必修ではありませんが、経済・経営・社会システムのいずれの専攻分野においても、データを使った分析はこれからです。データを使った分析はこれからでも多くの学生が挑戦してくれることを期待しています。なお、経済学部のカリキュラムではすべての学生に共通教養科目「データサイエンス・AIへの招待」を必修としており、文部科学省から「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(リテラシーレベル)プラス」に認定をされております。また、データサイエンスコースの提供などを背景に「応用基礎レベル」についても認定を受けております。

また、もう一つの特徴あるプログラムである共創グローバル人材育成プログラムについても、内容並びに人数を拡充し、グローバル・コースという名称に変更します。ここ数年は新型コロナウイルスの影響で海外留学・研修に困難が生じていましたが、20

22年度後半からは大学からの海外派遣も再開されております。キャンパスの国際化も含め、グローバル化教育も強化します。

2022年度にはいくつかの新しい全学組織が誕生しています。まず、これまで経済学部の組織であった地域連携教育推進室が、産学公連携推進機構に移管され、地域連携教育推進センターと改称されました。このセンターではこれまで同様に地域と連携したPBL型科目の提供をおこないつつ、他学部との協力などをより強く意識しながら地域連携教育の推進をはかっていきます。また、起業家マインドを育てる組織として、同じく産学公連携推進機構の中にアントレプレナーシップセンターが誕生しました。このセンターでは、近江商人の伝統を引き継ぐ経済学部とデータサイエンス学部や教育学部などが連携し、起業家精神を培っていくための授業やイベントなどを提供してまいりますので、ご期待ください。

今年度も後援会の資格取得等報奨金制度への申請者が多数ありました。証券アナリスト試験は最終的には7名の二次試験合格者を出し、大卒として全国1位となりました。また、公認会計士も論文式の合格者を2名だしてあります。本制度は、証券アナリスト、公認会計士(短答式、論文式)に加え、税理士、ファイナンシャルプランナー、日商簿記

検定1級などの資格取得をてこに、学生の専門性や実践性を高める仕組みとなっております。

大学院経済学研究科については、今年度より1年制社会人コース（ビジネス・データサイエンス専修プログラム）がスタートし、1名の学生が履修をしています。このコースは、企業などにおける経験を前提に、事前学習と組み合わせることにより、1年間でビジネス・データサイエンスについて学び、修了できるコースです。また、文部科学省の「デジタルと掛けるダブルメジャー大学院構築事業」に採択され、現在、新たに経営分析学（Business Analytics）を学べる専攻を立ち上げるべく検討を行っております。

さて、2023年4月は彦根高等学校が最初の学生を受け入れてから100年という節目の年になります。IT技術のすさまじい発展など、この100年間には大きな変化がありました。一方で、何を幸せと感じるかなど人間そのものには大きな変化はありません。滋賀大学経済学部はこれからも、技術などの進歩を積極的に取り入れつつ、それらをどのように活用して人間社会を豊かにすることができるのかを考え、人材育成をはかりたいと思いますので、引き続きご支援のほどよろしくお願いいたします。

データサイエンス学部の教育研究について

データサイエンス学部長

椎 名 洋



データサイエンス学部から、今年3月に、第三期生が卒業しました。そして4月からまた新しい学生が加わります。就職や入試の正確なデータが整うにはまだまだ少々の時間がありますが、おおむねデータサイエンス学部に対する社会の需要は、入口・出口双方において順調であるという印象をもっています。

小学生の時からプログラミングを勉強するようになり、高校でも昨年の4月から「情報1」が必修化されました。データサイエンスの素養は、昔で言うところの「読み書きそろばん」のようなもので、誰しもが学ぶべきものであるという政府の「AI戦略2018」が段々浸透してきた感じがします。

こうした事情もあって、データサイエンスを学べる大学が急速に増え

てきました。今年の4月では10以上の大学でデータサイエンス関連の学部・学科が新しくスタートしています。滋賀大学データサイエンス学部が、日本で最初のデータサイエンス学部としてスタートしたのが2017年でしたので、6年経ってかなりライバルが増えてきたわけですが、ようやく本格的にデータサイエンスという分野が高校生の選択誌の一つとして確立されるようになってきたことは大変素晴らしいことであると考えています。

一方で、データサイエンスは社会人がリスキリングしている分野としても、大変人気が高くなっています。エンジニアが昨年度行った調査によると、リスキリングに取り組んでいる内容の上位5つのうち4つがデータサイエンス系のものでした（1位が語学、2位がITリテラシー、3位がデータサイエンス・統計解析、4位がデジタルマーケティング、5位がAI・機械学習）。

リスキリングは、社会に出て何年か経った人たちだけに係るものではなく、この3月に大学を卒業する方も、すぐに意識すべき事柄かと思えます。ご存知のように、情報革命、AI革命がものすごい勢いで進みつつある現代社会では、凄まじい勢いで「知識」、「常識」といったものが変化しています。大学で学部なら4年間、修士課程なら2年間で身に着けたこれらのものは、半年、

場合によっては一月で陳腐化する可能性があります。特にデータサイエンスの最先端の分野では、一晩で様相が変化することが起きています。

こうした激しい変化の中で「うまくやっていく」には、やはり常に自分をリスキリングしていく必要があるかと思えます。穏やかに、のんびり生きたいと考えている人（こちらの方がマジョリティであるように感じますが、どうでしょうか）には、リスキリングは、とても大変で面倒くさいことのように見えます。パソソル総合研究所が2022年に実施した調査では、現在自己投資しておらず、今後も予定はないと答えた人の割合が、日本は他の国と比べ突出しているそうです（日経新聞1月2日の記事「「学ばない日本人」にリスキリングさせるには」を参照）。日本では60%で、世界全体の27.6%や、インド、ベトナムの10%と比べると、とても高い数字です。この記事では、もはや「日本人は勤勉だ」という定評は崩れたと結論づけられています。

リスキリングを、次の仕事探しや生き残りの手段としてだけ考えると、やはり、ただしんどいだけになってしまふような感じがします。新しいことを学ぶことの楽しさを感じる部分がないと多分長続きもしないでしょう。

卒業生と時々会う機会があります
が、非常に多くの方から「大学時代
もっと勉強しておけばよかった」と
いう言葉を聞きます。また、DS研
究科の学生の約三分の一は、企業か
らの派遣ですが、非常に勉強心にあ
ふれた方たちが多いです。皮肉なも
のですが、大学(学部)を卒業して
初めて、勉強の楽しさを感じるよう
になったという人が多いのが現状で
す。でも、一度楽しさを感じられる
ようになったら、現在の日本には色
んな選択肢があります。ネットに
は、かなり質の高い教材が下手をす
るとタダでころがっていますし、社
会人向けの大学院や専門学校も沢
山あります。リスキリングの際の国や
企業からの補助もかなり充実してき
ました。卒業生の皆さんには、是非、
楽しみながらリスキリングに励
んでいただければと思います。その
際、滋賀大学の大学院(経済もDS
も、社会人に広く門戸を開いていま
す)も是非選択肢の一つとして考え
てもらえると嬉しいですよ。

コロナ禍を乗り越えて

コロナ感染症対策により様々な活
動が制限されてきました。特に在学
生の皆様においては、学生生活の大
半において活動自粛を余儀なくさ
れ、思い描かかれていた大学生活と
は異なったものだったと存じます。

しかしながら、我々はこのやっか

いなウイルスに立ち向かい、その災
い乗り越えようとしております。
大学の活動もコロナ禍前の状況に戻
りつつありますので、ご紹介いたし
ます。

令和4年度卒業式

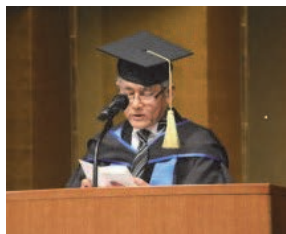
3月24日(金) 滋賀大学卒業証
書・学位記、大学院研究科学位記、
特別支援教育専攻科修士証書授与式
を挙行しました。式典は新型コロナウイルス
ウィルス感染症拡大防止の観点か
ら、3部制(第1部は教育学部・大
学院教育学研究科・特別支援教育専
攻科、第2部はデータサイエンス学
部・大学院データサイエンス研究
科、第3部は経済学部・大学院経済
学研究科)に分かれて、びわ湖ホー
ル(大津市)にて挙行されました。

ここ数年、新型
コロナウイルス感
染症拡大防止の観
点から卒業生及び
修了生のみ参加と
していましたが、今回は



保護者様にもご参加いただき、晴れ
の日を共にお慶びいただきました。

今年度は、教育学部233名、経
済学部447名、データサイエンス
学部95名、大学院教育学研究科修士
課程8名、大学院教育学研究科高度
教職実践専攻(教職大学院)20名、
大学院経済学研究科博士前期課程28
名、大学院データサイエンス研究科
(博士前期課程)37名、特別支援教
育専攻科9名、大学院経済学研究科
博士學位記授与者1名の合計878
名が本学を巣立ちました。



竹村学長から学
部、大学院、専攻
科の代表者への卒
業証書等の授与に
続き、学長式辞で
卒業生へはなむけ
の言葉が贈られた
のに続いて、在校

生代表からお祝いと感謝の言葉、ま
た、卒業生代表から今後の決意と教
職員、在校生への感謝の言葉が述べ
られました。

なお、卒業式におきましては、学
部、大学院、専攻科から特に学業成
績が優秀だった方が代表者として卒
業証書等の授与を受けるとともに、

学部において在学期間中に最も優れ
た学業成績を挙げられた方は学業成
績優秀者学長賞の表彰を受けられる
こととなっています。



代表者及び学業
成績優秀者に選抜
されることは、非
常に名誉なことと
ありますとともに
に、それぞれの
方々の不断の努力
に敬意を表しまして、以下にご紹介
させていただきます。

卒業証書等授与代表者

- 教育学部
- 学校教育教員養成課程 岩垣 志織
- 経済学部
- 会計情報学科 谷村 真菜
- データサイエンス学部
- データサイエンス学科 佐竹 竜弥
- 大学院教育学研究科
- 修士課程 学校教育専攻 堤 祥晃
- 大学院教育学研究科
- 専門職学位課程 高度教職実践専攻 濱野 裕子

大学院経済学研究科

博士前期課程 経済学専攻

杜 聖一

大学院データサイエンス研究科

博士前期課程 データサイエンス

専攻 石塚 諒一

大学院経済学研究科

博士後期課程 経済経営リスク専攻

森 一葉

特別支援教育専攻科

障害児教育専攻

森山穂乃香

学業成績優秀者学長賞表彰者

教育学部

学校教育教員養成課程

佐子 千晴

経済学部

会計情報学科

辰巳 智子

データサイエンス学部

データサイエンス学科 泉 英樹

経済学部・データサイエンス学部

後援会の戸田茂会長も来賓として式に出席されました。同窓会組織である陵水会理事長の山田督様とともに、学生の門出に相応しい饞のメッセージを贈られました。

また、大学HPに卒業生・修了生の皆様への学長メッセージが掲載されていますので、以下のQRコードからアクセスし、ぜひご覧ください。



滋賀大学学長賞について

第1回授与式

1月27日(金)彦根キャンパス学長室において、令和4年度第1回滋賀大学学長賞授与式を挙行しました。

授与式では、学生支援課より選考結果の概要について説明があり、竹

村学長より今回受賞の5組に表彰状と盾、副賞が授与されました。授与の後、学長から祝辞があり、受賞者からそれぞれ謝辞が述べられました。

授与式後は、受賞者から学長にこれまでの取組や今後の意気込み等が語られ、和やかに懇談が行われました。最後に学長から、「今回の受賞は他の学生の目標や励みとなるので、自信をもって今後も皆様がさらなる活躍をされることを期待しています」とエールが送られました。



学長を囲んで記念撮影

受賞理由は以下のとおりです。

澤木聖子ゼミナール国際労働チーム(経済学部)

第67回日本学生経済ゼミナール大会 優秀賞

辻本健太郎さん

(データサイエンス学部)

統計検定 準1級 最優秀成績賞

漕艇部(経済学部)

2022年度関西選手権漕大会

一般男子舵手つきフォア 優勝

片山好人さん、小山晴也さん、柴田雄大さん

(ウインドサーフィン部、団体)

2022年度関西選手権第二戦

準優勝

片山好人さん

(ウインドサーフィン部、個人)

2022年度関西選手権第二戦 優勝

第2回授与式

3月23日(木)彦根キャンパス学長室において、令和4年度第2回滋賀大学学長賞授与式を挙行しました。

授与式では、竹村学長より今回の受賞者で、朝日レガッタに入賞した漕艇部の高木咲希さんに表彰状と盾、副賞が授与されました。授与の後、学長から祝辞があり、高木さんから謝辞が述べられました。

授与式後は、学長と受賞者が懇談する場が設けられ、受賞者からは大会及びエントリーした種目の説明があり、普段練習していた慣れている場所での大会ということもあって実力を発揮することができたことなどの話題が上がりました。

最後に、学長から高木さんの今後

ますますのご活躍を祈念され、授与式を閉じました。



学長と記念撮影

受賞理由は以下のとおりです。

高木咲希さん（教育学部）
第73回朝日レガッタ 一般女子シン
グルスカル 第3位

滋和戦を3年ぶりに開催

6月18日（土）、19日（日）を中心
に第55回滋賀大学・和歌山大学
二大学学長杯争奪総合定期戦が開催
されました。新型コロナウイルスの
影響により3年ぶりの開催が実現し
た今年度は、前回から引き継ぎ本学
が当番となり、主に彦根、大津両
キャンパス内で熱戦が繰り広げられ
ました。

18日（土）に行われた開会式で
は、本学の竹村学長が式辞、和歌山
大学の伊東学長が祝辞を述べられま
した。その後、両大学団長である本
学の渡部副学長、和歌山大学の永井

副学長より激励の言葉が送られまし
た。

1日目から和歌山大学が各競技に
おいて勝利を重ね、2日目に滋賀大
学が追い上げを見せるも及ばず、最
後は和歌山大学の6年連続総合優勝
という結果となりました。



19日（日）に行われた閉会式で
は、お互いの健闘を称えあい、来年
以降もこの伝統ある定期戦を盛り上
げていくこととし、両校の更なる交
流を確認しました。
（通算成績は滋賀大学の31勝21
敗3引分け）



閉会式を終えて

滋大祭開催

3年ぶりに地域の皆様でご来場

彦根キャンパスでは、3年ぶりに地域住民の方々にも参加いただき、10月29日（土）から30日（日）の2日間にかけて「第56回滋大祭」を開催しました。



新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、必要な感染拡大防止対策を講じたうえで、過去2年間、実施できていなかったフリーマーケットや模擬店の出展も行いました。

両日ともに天候にも恵まれ、キャンパス内の各所で模擬店やフリーマーケット、ステージイベントやクラブ・サークルの教室展示など様々な企画が催され、学生だけでなく地域の子どもからお年寄りの方まで多くの方々にご来場いただき楽しんでいただきました。



空手部寒稽古も3年ぶりに実施

1月19日（木）、滋賀大学体育会行事の名物の一つ、空手部による寒稽古を松原湖畔にて実施しました。2020年以降中止が続く、空手部員も準備の段階で苦戦する部分も見られましたが、「伝統行事を途絶えさせたくない」との思いから今年度は3年ぶりに開催が実現しました。気温8度の中、参加者たちは元氣よく琵琶湖へ向かって駆け出し、冷たい水の中で寒さに耐えながら心身を鍛えました。



寒稽古のあと、20歳を迎えた学生を中心とした「二十歳の誓い」という、抱負を叫びながら琵琶湖に飛び込む恒例行事も行われました。また、例年20歳以外の学生も参加し誓いを立てており、今回も学生生活や一般生活での誓いから資格取得の誓い等、多岐にわたる学生らの様々な思いを発表し、極寒の琵琶湖に飛び込んでいきました。

自主企画プロジェクト

3月6日(月)、令和4年度の学生自主企画プロジェクトの成果報告会を開催しました。

今年度の学生自主企画プロジェクトは、学生の自主的な優れたプロジェクトを支援し、学生の企画力、実践力等を引き出すことを目的として実施し、その成果について今年度採択された4件のプロジェクトから報告がありました。

採択プロジェクト

- ・和菓子屋×滋賀大生による
新商品企画プロジェクト
- ・滋賀大ラジオプロジェクト
- ・カモンちゃんプロジェクト2022
- ・介護情報メディア制作プロジェクト

報告会は感染防止対策のためZoomを使用し、プロジェクトの代表がパワーポイントの資料を用いて報告を行いました。審査にあたった学生支援部会の教員からはプロジェクト内容に関する質問や、今後の活動を発展させていくためのアドバイス等があり、学生たちにとって有意義な報告会となりました。

成果報告会では審査も行われ、今

年度最も優れたプロジェクトとして選ばれた「介護情報メディア制作プロジェクト」には、渡部雅之理事から副賞が贈られました。

国際交流

滋賀大学は、世界14の国と地域にある22大学、1コンソーシアム(大学連合)及び1ビジネススクールと全学レベルの学生交流協定(交換留学)を締結しています。この協定に基づき、滋賀大学と相手方大学との間で学部生及び大学院生の派遣、受入れを相互に行う交換留学が行われています。

留学期間は最長1年以内で、留学期間中の授業料は本学にのみ納入し、留学先大学での授業料は免除されます。また、夏季休業期間等を利用して、短期間に目的意識をもって異文化を体験できる海外研修のプログラムも実施しています。

3年もの長きにわたった新型コロナウイルス感染症がようやく世界レベルで沈静化に向かい、水際対策が緩和され、徐々に国際的な往来が復

活してきているところです。海外派遣短期研修については、海外大学の受け入れ体制を確認し、2022年度は2つのプログラム(オーストラリア研究、メキシコ語学・文化研修)を再開しました。また、協定校に交換留学生3名を派遣しました。

今後、海外協定校の見直しや新規開拓を進め、研究者を含めた人的交流を拡大し、学生の国際交流への関心や国際感覚を醸成するイベントを積極的に開催していく予定です。

留学体験記

こんにちは。滋賀大学経済学部3年の楠本涼瑛と申します。オランダのゾイド大学で学んでいます。こういった機会を頂きとても光栄です。飾らずに、ありのままを書くことで、留学に興味を持っていたかどうか、留学へのハードルを下げることでできればと思います。

私が交換留学を申し込んだのは2021年の12月です。申込みの際には、国際交流課のスタッフより、留学を成功させるためには何よりも準備が大切であり、その準備とは語学



力の向上だけでなく、留学の目的や目標をはっきりさせることであるとアドバイスをいただきました。実際に留学に来てたくさんの人と関わる中で、思うように留学生活を送れていない人もいて、留学前に目的や目標をはっきりさせておくことの大切さを実感しています。また、実際に留学を経験された先輩と繋いで頂くなど、国際交流課のスタッフの方々には大変お世話になりました。大学生の留学は、実は入学したときからの準備がとても大切です。留学申込までに必要となる英語資格取得や志望理由をまとめておく必要があります。ただ、私が本格的に資格の勉強を始めたのは入学後のため、これから準備を始められる方も焦る必要はないと思います。できるなら春と秋に開催される留学説明会にぜひ参加し、留学に対する自分なりのビジョンを持つてください。

皆さんはオランダという国についてはどういったイメージをお持ちですか？チューリップや風車といった景観をイメージされる方や、ヨーロッパの港、運河などをイメージされる方が多いと思います。日本を出る前の私にとっては、「国民の英語力がとても高い、大麻が合法である国」で、大麻が合法って怖いな、が率直な感想でした。そのため、治安は大丈夫かという不安がありました。その不安がさらに強くなったのが出発前研修です。日本は治安が良すぎるから、日本での当たり前は海外では通用しない。イヤホンをつけて歩くと危険だとか、パーティに参加した時の食べ物や飲み物は気をつける、とかですね。散々脅されるわけですね(笑)

実際はどうだったのか。治安、全然悪くありません。単に私の運がいいだけかもしれません。日本ですでに生活と同じような生活ができています。ただ、自分がマイノリティになるという感覚は新鮮です。日本では周りの多くが日本人で日本語を使って生活することが当たり前ですが、こっちに来ると私は完全にマイノリティです。雑な中国語で絡まれることや明らかに視線を感じることも、普段の生活での感覚が変わりません。また、電車やスーパーなどは、オランダ語表記やオランダ語アナウンスのみで、生活も少し不便利です。自分がマイノリティになるという経験は留学のとても重要な要素だ

と感じます。このような環境で異文化間コミュニケーションやマーケティングを学ぶ日々は刺激的でワクワクします。



そんな中で、今一番辛いことは円安と物価高です。私が交換留学に申し込んでから出発までの期間にどんどんと円安が進行しました。加えてウクライナ侵攻によるエネルギー価格の上昇で、寮費の大幅値上げやインフレーションもおきています。先行きが見えないこの状況は厳しいです。

主な協定大学一覧	
大学名	国・地域
ミシガン州立大学連合	アメリカ合衆国
ディーキン大学	オーストラリア
シドニー工科大学	オーストラリア
チェンマイ・ラジャバット大学	タイ
東北財経大学	中国
グアナファト大学	メキシコ
国立高雄大学	台湾
啓明大学	韓国
サウスイーストノルウェー大学	ノルウェー
ゾイド大学	オランダ
西部カトリック大学	フランス
国立台中科技大学	台湾

海外研修プログラム一覧	
プログラム名	大学名
アメリカ語学研修	ミシガン州立大学
オーストラリア研究	ディーキン大学
中国語学研修	東北財経大学
メキシコ語学・文化研修	グアナファト大学
韓国語・文化研修	啓明大学
イギリス研修	リーズトリニティ大学
フランス語学文化研修	西部カトリック大学

最後に、今後の目標を宣言させていただきます。まず、コロナ禍且つこういった経済状況にあるにも関わらず、留学させていただいていることへの感謝を忘れずに、日々を過ごします。帰国後は、経験を共有すること、滋賀大学から留学に行きたいと思うような学生を増やす活動したいと思います。

ウクライナ人の学生支援

2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻以降、本学はウクライナからの避難民として3名の学生を経済学部研究生として受け入れました。7月にドニプロ国立大学から来日した2名のうち1名は3月末で母国に帰国し、滋賀大学在学中に経験したことを元に、母校の大学院試験

を受験する予定です。もう1名の方は2023年4月から経済学研究所に入学して経営学を中心に学ぶこととしています。8月にキール国立経済大学から来日した学生は、さらに1年間研究生として日本語を中心に学び、来年度の大学院進学を目指します。

本学は今後も住居支援や授業料免除をはじめとしたさまざまなサポートを行っていきます。

CIEEプログラム・アメリカ人留学生との交流

本学との連携協定に基づき、CIEE（一般社団法人国際教育交換協議会）による短期受入れプログラムを2年半ぶりとなる2022年8月に実施しました。

これに伴い、2022年度中に31名のアメリカ人留学生を本学教育学部やデータサイエンス学部で受け入れ、グローバルプラザ京都で学ぶとともに、本学キャンパス及び附属学校園で開催された交流イベントで園児、児童、生徒、学生との交流を行いました。

今後もCIEEと協力して毎年本プログラムを実施し、本学学生も共に学び学内で留学生と交流できる機会を増やしていきたいと考えています。

令和4年度滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会資格取得等報奨制度給付一覧

(令和3年4月～令和4年3月末日までの受理分)

分類	サポート対象事項	基準	報奨額(円)	給付件数	給付者氏名(敬称略) (回生は申請時)
資格試験・認定試験	1. 税理士試験 (申請は、基準(1)、(2)のいずれか1回に限る。)	(1)会計学に属する科目の中から、いずれか1科目合格者	30,000	0	
		2科目同時合格者	50,000	1	・足立 響 (DS学部3回生)
	2. 公認会計士試験	(2)税法に属する科目の中から、いずれか1科目合格者	40,000	0	
		「短答式試験」合格者	50,000	2	・藤田浩人 (経済学部3回生) ・山本悠太 (経済学部2回生)
	3. 日商簿記検定試験	「論文式試験」合格者	100,000	2	・安達浩平 (経済学部4回生) ・藤田浩人 (経済学部3回生)
		「1級」合格者	70,000	2	・富安悠平 (経済学部2回生) ・山本悠太 (経済学部2回生)
	4. 証券アナリスト試験	「第1次レベル試験」合格者	30,000	9	・松原孝典 (経済学部3回生) ・松尾侑弥 (経済学部3回生) ・福原秀明 (経済学部2回生) ・西村慎之助 (経済学部2回生) ・竹内優貴 (経済学部2回生) 他4名
「第2次レベル試験」合格者		40,000	2	・久保健太 (経済学部4回生) ・谷飯優一 (経済学部4回生)	
5. データベーススペシャリスト試験	合格者	50,000	0		
6. 品質管理検定	「1級」合格者	50,000	0		
7. 統計検定「1級」	「統計数理」、「統計応用」のいずれか1科目合格者	50,000	2	・相田 航 (DS学部4回生) ・泉 英樹 (DS学部3回生)	
	2科目同時合格者	20,000	0		
語学試験	8. TOEIC (公開テスト)	800点以上	30,000	18	・東 彩美 (経済学部4回生) ・佐藤宏太 (経済学部4回生) ・福井新大 (経済学部4回生) ・辻 拓斗 (経済学部4回生) ・鬼頭武史 (経済学部4回生) ・藤河諒真 (経済学部4回生) ・集治瑞穂 (経済学部4回生) ・谷飯優一 (経済学部4回生) ・山田悠太 (経済学部3回生) ・永吉 優 (経済学部3回生) ・清水 謙 (経済学部2回生) ・小林大斗 (経済学部2回生) 他6名
		900点以上	50,000	20	・西村勇輝 (経済学部4回生) ・北山千智 (経済学部4回生) ・喜多村悠矢 (経済学部4回生) ・片田雄大 (経済学部4回生) ・北村春菜 (DS学部4回生) ・藤野真誠 (経済学部3回生) ・梶塚 仁 (経済学部3回生) ・杉田嘉音 (経済学部3回生) ・三宅里奈 (経済学部3回生) ・坂本 開 (経済学部3回生) ・上田航平 (DS学部3回生) ・泉 英樹 (DS学部3回生) ・堀内 毅 (経済学部2回生) ・角 祐輔 (経済学部2回生) ・出野皓大 (経済学部2回生) ・橋本昂星 (経済学部2回生) ・張 龍也 (DS学部2回生) 他3名
留学	9. 本学交換留学制度に基づく海外留学	アジア圏	40,000	0	
		その他	80,000	0	
その他	10. スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは団体、又は、上記1～8に相当すると思われる事項		-	0	
計				58	

注) 1. 給付者氏名については、氏名を公表することの承諾を得た学生の方のみ記載しています。

資格取得等報奨制度

「後援会資格取得等報奨制度」は、スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは団体を報奨することにより、学生の日頃の勉学等を支援し、資質の向上に資することを目的として、平成26年10

月に創設され、その後、データサイエンス学部の設置に伴い、対象試験等の一部を改正しました。
今年度(令和3年4月から令和4年3月受理分)は、左表の通り、58件に対して給付され、これまでの累計で418件(団体含む)が対象となりました。学生からはステップアップのための資金にしたいとの頼もしい声が聴かれ、今後も、多くの学生諸君から応募していただけるよ

う願っています。
また、学生諸君には、別途、学内においてお知らせしていますが、保護者の皆さまにおかれましても、ご覧いただいた上で、お子様にお伝えいただきたく存じます。
今後、より良き制度に改善して行きたいと考えておりますので、会員の皆さまからも是非ともご意見等お寄せいただければ幸いです。

戸田後援会会長に感謝状贈呈

戸田茂後援会会長におかれましては、令和5年3月をもって会長職をご退任されることになりました。つきましては、後援会役員通算19年、会長職10年の長きにわたり大役をお務め頂いたことに感謝し、中野経済学部長、椎名データサイエンス学部長から感謝状を贈呈いたしました。紙面にて会員の皆様にご紹介させていただきますとともに、改めて戸田様への感謝を申し上げます。大変お世話になりました。



戸田会長(中央)を囲んで

編集後記

後援会だよりは次のURLでもご覧いただけます。
<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>
会員の皆様の記事についての感想や要望、後援会や経済学部・DS学部に対する要望、ご意見等を郵送又はFAXでお聞かせください。

〒525-8522 彦根市馬場一丁目1番1号
FAX 0749271132